別記様式（第３条関係）

開催記録

名　称	第 5 回公共施設検討有識者会議
開催日時	平成 25 年 8 月 7 日　13 時 40 分から 15 時 30 分まで
開催場所	会津美里町役場高田庁舎　第 6 会議室
出席者	【有識者会議委員】 柴崎恭秀、北川圭子、柿沼整三、濱尾博文 【事務局】 まちづくり政策課：渡部まちづくり政策係長、渡部主任主査
議　題	公共施設の検討について
資料の名称	なし
記録方法	□全文記録　■発言者の発言内容ごとの要点記録　□会議内容の要点記録

内容

１．開会

２．協議

（委員）報告書のたたき台として整理した。まず、近年の動向等として市町村合併によって全国でどのようなことが起こっているかと一般的にいわれている庁舎を建設するメリット・デメリットを整理した。以降はタイムフローで整理した。まず、現地視察を終えての各委員の意見をまとめた。今回は多彩な委員が集まり、多様な意見をいただいたので、総括的な文章でまとめるのはもったいない。所見として各委員の意見も添付したいと考えている。視察を終えての意見としては、高田庁舎の歴史的価値、本郷庁舎のセントラル空調システムによるメリット・デメリット、新鶴庁舎は維持管理しやすい建物であるが 3 階が倉庫化している現状、非農用地についてはアプローチの問題などが話し合われた。第 2 回では、現在の各庁舎の役割分担を整理した。生涯学習課が新鶴庁舎に移ったことにより、付随する文化財等の資料が保管できなくなり、流動的に 3 階の議場に積まれるようになってしまったことや永久・長期保存文書が膨大にあることなどが確認できた。ファイリングシステムが庁舎毎に統一されておらず、文書管理も大きな課題として認識された。第 3 回では自由に意見交換を行い、20 年後、30 年後の長期的視野

にたった検討が必要なことや IT 化による地域ネットワークの構築などが議論された。文化施設については、会津若松市の「会津稽古堂」の利用率が高いことから、質の高い施設をつくることによって地域活性化の核になることも可能であることが話し合われた。第 4 回では、各委員から提出していただいた報告をまとめた。防災ネットワークの構築とモデル図などを整理した。最後に総括として、これからの子供たちを「美里の子」として育むために一体感を醸成していく必要性などを踏まえ、一提案としてまとめた。有識者会議としての 1 つの結論ではなく、一提案として整理した。具体的には、非農用地に文化施設と現高田庁舎と同規模の庁舎を建て替え、そこに防災情報センター機能を付加して会津美里町の中心的な位置づけをしていく。将来、新鶴と本郷を時間系列的に統合していく。新鶴庁舎には、離れていてもそれほど問題のない教育委員会を置き、税務課を高田に統合することによる空きスペースを使えば、倉庫化している議場等を別のものに転用できる。2020 年ぐらいまでには教育委員会を含めて新しい庁舎に移転し、空いた新鶴庁舎は耐用年数的にも問題ないので利活用を図る。ファイリングシステムを導入するなど文書管理等情報の一元化を図っていく。非農用地に高田庁舎程度の規模の庁舎を建てるにしても、将来を見越せば、3 庁舎分の書類が保管できる保管庫も必要となる。防災情報センター機能の中に、文書管理を 1 箇所で行うことも必要である。空調の個別管理が可能な新鶴庁舎を IT 関連企業など民間企業に貸付できるよう積極的に努力していく。町が 1 つになっていく建築的な仕掛けづくりとして、大屋根をかけてソーラーパネルを設置してはどうか。福島県も積極的に取り組んでいる。非農用地に大屋根をかけて木造できれいな庁舎を増築していく。ソーラーパネルの専門家に聞くと、雪国は空気が清んでいるため発電効率が高いようだ。雪の影響を少なくしながら、非農用地にメガソーラーをやる。文化施設と庁舎の間、将来増築予定のところには屋根をかけて、屋根下駐車場をつくってはどうか。増築も楽になる。合併特例債が活用できるときにある程度のものをつくっておき、後の増築ではなるべく費用がかからないようにする。北風が雪を飛ばしてくれる。どうだろうか？

（事務局）非農用地に建設する 2000 ㎡のスペースに現在の高田庁舎の課と税務課が入るか？

（委員）難しいかもしれない。あまり大きくすれば総合庁舎と変わらない規模になってしまう。いくつぐらいからスタートするか。数字（面積）については検討が必要。本郷庁舎について、2030 年になれば 40 年ぐらい経過することになり、設備備更も必要となる。将来に向け 1 つになっていく。徐々にまとめていく。余計なものをつくらなくて済むことがこの案のいいところ。

（委員）この案が皆さんの意見を総合した図とはいえないが、一提案として整理した。最後に、会津美里町の今後の発展のための提言をまとめた。まちづくりの観点から、高田庁舎と公民館がなくなることにより高田の市街地は衰退する可能性がある。逆に、その場所に何か変わるものをうまくフィッティングできればまちづくりに貢献できる。公民

館をどう再利用していくか。まちづくりの観点が必要。地域ごとでなく美里トータルでまちづくりを考えていく必要がある。文化施設に対する住民からの要望は高い。

（委員）ソーラーについて、壁に設置する方式もある。屋根だと雪が積もってしまうので。その研究も進んでいるようだが。

（委員）壁設置もありだと思う。コスト的に割高のようだが、将来的には追いついてくるだろう。

（委員）屋根よりは35%程度は効率が落ちる。

（委員）ソーラーを設置することにより国・県の補助金や企業誘致にも活用できる。非農用地という広い土地で、強い風によって雪を吹き飛ばしてくれる、うまく活用できないかと思う。非常時のエネルギー対策としても活用できる。

（事務局）ソーラーについて、雪国でも上手く使えば有利に転換できるのか？

（委員）雪国で問題になるのは、ソーラーに雪が積もることである。

（委員）天候の問題もある。例えば、太平洋側と日本海側を比較すると冬期間で考えれば20～30%程度は悪くなる。

（委員）高くするなど積雪に対処すればどうか？

（委員）大丈夫だと思う。

（委員）国の補助制度をうまく活用できればいいと思う。

（委員）高田庁舎について判明した。設計者は内田英吉さんという方。会津若松市の古い庁舎を設計された。福岡県出身だが、東京で清水組（現清水建設）の設計で修行され、在職中に工手学校（現工学院大学）で学ばれた。大正末に内田建築設計事務所を福島市に開いた。当時、福島県には一級建築士のような技術者が3人ぐらいしかいなく、県内の庁舎建設のほとんどを設計されていたようだ。内田さんは会津若松市の庁舎や旧松川庁舎、大玉村役場や小野町役場などを設計された。昭和30年代後半まで、福島県では鉄筋コンクリートの建物を建てる経済性がなかった。昭和40年に入ってから急速にコンクリートの建物に変わっていく。ローコストで地域のお金で建てられる建物の設計を内田さんは一生懸命やられた。当時の高田町長が小野町役場をみて内田さんに設計をお願いしたようだ。大玉村は耐震改修をして使っている。小野町もいまのところ建て替える予定はないようだ。当時の鉄骨の設計技術としてはピカイチだった。構造的な問題については当時解析する技術がなかった。内田さん自身がアングルや軽量鉄骨を組み合わせたものを手計算したそうだ。県庁のすぐ近くに事務所を構えて、住宅局などの技術者が仕事を終えた後に内田建築設定事務所に勉強しに行っていたようだ。

（委員）既存の高田庁舎を別の用途としてうまく活用することも可能ではないか。庁舎が非農用地に移動した場合の市街地活性化の一つの方策として考えられるのでないか。

（委員）議場について、市民ホールと共同で使うことも可能ではないか。

（委員）議場の稼働日数を考えれば可能だと思う。

（委員）地元の気候風土を十分に熟知し、力量のある方に設計をお願いしたい。単に有名

な設計事務所に決まってしまうのでなく、判断できる方をプロポーザルあるいはコンペの審査員に選んでほしい。豪雪や通風に対する考慮不足の結果，ランニングコストが多くかかるなど、問題のある事例が福島県では多いように思う。北海道ではプロポーザルの審査員が業者決定後もアドバイザーとして施工・竣工まで関わっている事例もある。

（委員）プロポーザルの審査員に建築に関して素人の人数が多い場合がある。その場合、どうしても奇抜なものに目がいってしまう。メンバーの人選についても十分に検討してほしい。

（委員）地域性とともに将来の維持管理コストを踏まえた経済的なものを建築してほしい。

３．その他

総括の修正項目、各委員の所見について、8 月 16 日までにメールで送付する。

8 月 19 日の週に町長へ報告書を提出する（日程は別途調整）。

４．閉会